



前期（17年9月期）は、連結受注高が595億円（16年9月期比23%増）と大きく伸びた。受注高のほぼ半分を海外が占めたため、前期は配置予定の人材を倍増した。今後

ACKグループ

野崎 秀則社長

はグループ間の人材の相互融通を加速させる。グループのオリエンタルコンサルタンツに現地法人をつくった。東南アジア各国で受注した案件の設計を担うデザインセンターとして機能させる。ローカル人材の教育も行い、事業競争力を高める。

国内は、防災、インフラ保全、交通、地域活性化などの分野で新しい収益モデルを開拓する「重点プロジェクト」に注力する。人工知能（AI）やCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）などの新技術を導入し、プロジェクトの調査・設計・施工監理・運営という川上から川下までの業務を統合する仕事の仕組みの構築と、地域活性化、交通、インフラ保全など複数事業を一つ

のパッケージにする「総合事業」の提案も目指す。昨年10月にオリエンタルコンサルタンツ内に自治体を支援する専門部署「官民連携推進室」「アセットマネジメント事業推進部」を新設した。大学や異業種とも連携し、地域が抱える複合的な課題を一気通貫で解決しながら、コンサル本来の道路や防災など調査・設計業務の受注につなげる。顧客に自ら企画を提案し、新たな価値を提案する「社会価値創造企業」を目指す。

自ら提案で社会価値創造

顧客に自ら企画を提案し、新たな価値を提案する「社会価値創造企業」を目指す。